

蟹江 憲史



かにえ・のりしか
専門は
国際関係論、地球システムガ
バナンス。著書に「SDGs
(持続可能な開発目標)」な
ど。52歳。

影響を測るというものだった。
幸運なことに公募を勝ち抜き、大
会終了後まで7年に及ぶ調査を行う
ことになった。私にとっては五輪の
夢に近づいた瞬間であり、興奮した。
ただ残念なことに17年初め、国際オ
リンピック委員会（IOC）から調
査の中止が示された。
東京五輪が掲げる重要なテーマの

子どもの頃の夢は、オリンピック
に出ることだった。世界の精鋭が集
まる場に自分も身を置いてみたい、
そんな憧れを持っていた。選手とし
ての出場は早々にあきらめたが、何
らかの形で真剣勝負の素晴らしい舞
台に関わることはできるはずだ。そ
う思い続けてきた。

大学時代に寮の同部屋で過ごした
後輩がシンドニーフィル輪の出場を決め
ると、当時の仲間と現地へ応援に行
った。身近な後輩の出場に胸を躍ら
せたのはもちろん、五輪の魅力にあ
ふれたホスト都市の躍動に感動し、

スポーツがもたらす影響力の大きさ
に改めて感じ入った。

五輪に関わるとしたら、ボランティ
アはその一つだろうし、大会関係
者や役員という道もあるかもしれない
。そんなチャンスが、思わず形で
巡ってきた。2016年、東京五輪
・パラリンピックの影響調査が行わ
れる。聞き、その公募に手を挙げた。
提案したのは、貧困や格差、気候危
機といった人類の未来を危ぶむ諸課
題の解決を目指す「持続可能な開発
目標（SDGs）」にどこまで近
づいているかという観点から大会の

めでいきたいという思いである。
ところが、そんな憧れの五輪が、
岐路に立たされている。コロナ禍と
いう未開拓の出来事に直面し、開催
のいかんが取り沙汰されている。日
本国政府としては、このままリギ
く実現したいのであろう。一方、深
刻な危機に直面する医療現場や感染
の状況を直視する人々からは、あま
りおかしなことは、地球規模

の大イベントでありながら、世界
に残さない」であるが、この状況で
五輪を開催して、果たして世界の精
鋭たちは誰一人取り残されずに集ま
ることができるのだろうか。日々限
界に挑戦してきた成果を最高のパフ
オーマンスで競い合えるのだろう
か。感染やワクチン接種の状態で各
国選手の準備や参加に差が出るとす
れないと、日本は島国で閉鎖的だ、とい
う状況が、全く改善されていないの
も残念だ。

以前この論壇で、あらゆる局面に
おいて日本の意思決定が、あまりに
しなかつたが、それでも「オリンピッ
クの持続可能性」を測れないかと考
え、学生たちと独自の取り組みを進
めた。根底にあったのは、五輪と
いう人類の大イベントに魅了されて
きた者として、その持続可能性を高

る。だからこそ、さまざまな知見に基
づいて虚心に議論をすることで、本
質が見えてくる。そして、その議論の
過程は、透明性をもって明らかにす
ることで、多くの人に考えるきっかけ
をも与える。このプロセスを仄く意
思決定は、持続不可能に見える。
さらにおかしなことは、地球規模

SDGsの基礎理念は、「誰一人取
り残さない」であるが、この状況で
五輪を開催して、果たして世界の精
鋭たちは誰一人取り残されずに集ま
ることができるのだろうか。日々限
界に挑戦してきた成果を最高のパフ
オーマンスで競い合えるのだろう
か。感染やワクチン接種の状態で各
国選手の準備や参加に差が出るとす
れないと、日本は島国で閉鎖的だ、とい
う状況が、全く改善されていないの
も残念だ。

ロイターの集計では、新型コロナ
の新規感染者数は19日現在、44カ国
で増加を続けている。ブラジル、イ
ンドで新規感染者が7万人に上り、

SDGsの達成を目指すオリンピ
ックであれば、その視点から問い合わせ
し、議論すべきである。

新型コロナ

東京五輪